

2022.7.18

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

- 植物モニタリング活動 8月は8/1、8/8、8/15 9:00 ため池公園スタート
- 赤塚公園ニリンソウを守る会 8月=お休み 9月例会=9/11 10:00 大門観察台
★いずれも、飛び入り参加歓迎! 雨天は小雨でも中止

<問合せ: 赤塚公園サービスセンター03-3938-5715>

蒸し暑い中でも吹く風が救いの夏 生い茂る実生のクサギの刈り取りも実施

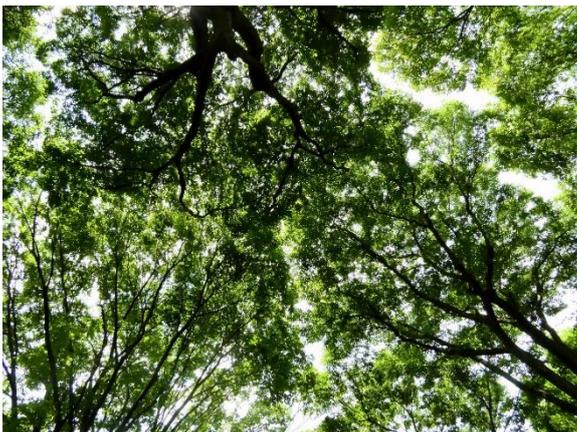
7/18の環境省の熱中症予防サイトは、7:00の時点で午前中(9:00~12:00の間)は黄色マーク(警戒)だったのが、8:00には赤マーク(嚴重警戒)にランクアップしていました。気温が上がらなくても湿度が高いと、人の体の中にため込まれる熱が高くなって熱中症の危険が増すようです。



この日は、観察活動が始める前に八丁目の林のフェンスの外側で、道路に大きくはみ出して茂っている実生のクサギの刈り取り作業を行いました。フェンスに絡まっているクズのつるやアズマネザサも出来るだけ一緒に刈り取りフェンス際をさっぱりとしました。でも、上の真ん中の赤枠写真のように葉が茂っている部分もあります。ナワシロイチゴという他では見られない植物を残したいからです。「大事にしてください」のお願い札もつけてありますので、よろしく願いいたします。

刈り取ったクサギの枝はセンターが回収します。この作業が10人で15分でした。

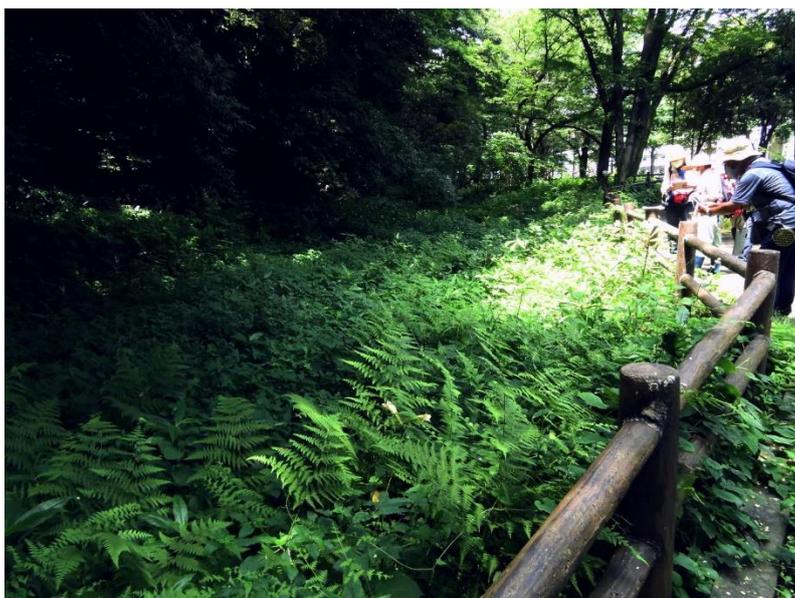
あとは、いつものように植物観察活動です。



上を見上げれば枝を伸ばしたケヤキの葉は黒々と、でも、時折吹いてくる風が気持ち良い真夏の観察活動でした。



「共存」の姿 春とは全く違うニリンソウ自生地 夏草に覆われる



上の左は4月中旬のニリンソウシーズン中の大門自生地くぼ地、右は同じ場所の7/18の様子。夏から秋にかけて生きる何種類もの植物で覆いつくされています。とても同じ場所とは思えないのですが、それだけたくさんの植物が共存して生きているということです。



たくさんの種類の植物が生きていれば、昆虫たちもそれぞれの好みの花に寄ってきて蜜を吸い、雌蕊（めしべ）が雄蕊（おしべ）の花粉を受けるのを手助けしてくれる生きもの世界の共存・相互依存の大きな輪が広がっていきます。

生物多様性保全エリアに野草が広がってきた



←黄色の花は**ダイコンソウ**、大きく長い葉は**ガガイモ**です。いずれも3年前までは人が歩いていた場所。そこを生物多様性保全エリアとすることで、様々な野草が生きてくるようになりました。

大門で今一番目立つ花→

ウバユリ。でも、今年は瑞々しさが足りません。天候のせいかも・・・

←実よりも立派な虫こぶ

エゴノキの実が大きくなりました。その中に実よりも立派な虫こぶが垂れ下がっています。猫の肉球に似ているので「猫足」と言うそうです。



熱中症の危険増大に コロナ感染再拡大！
みなさま、気を付けてお過ごしください！